

「第3回アドバイザー会議」における補足説明(再質疑)

調書番号:14 事業名:流域下水道普及活動推進事業費補助金

補足説明

説明者職・氏名	説明内容
室長・久保田 一男	<p>流域下水道は、未整備地域の整備及び既整備地域の接続の促進が課題であるため、アドバイザーからの意見等を参考に、今後は普及啓発対象の重点化と役割の明確化の観点から、以下の ~ を連携させ取り組んでいくこととしたい。</p> <p>啓発物品配布・個別訪問等については、接続率の低い地域を対象に、年間を通じて回数を増やし重点的に実施するとともに実施結果を報告</p> <p>下水道まつりについては、相談コーナーの拡充やアンケートの工夫により結果を個別訪問等にフィードバック、未接続者への開催アナウンス</p> <p>業務研究会については、 の課題・対応を定期的に整理・情報交換し、ノウハウを蓄積、下水道の新工法等新技術の情報共有と整備事業への活用</p>

再質疑

アドバイザー	質問内容	回答者職・氏名	回答内容
小口アドバイザー 五味アドバイザー 諸平アドバイザー	なし		

「第3回アドバイザー会議」における評価区分及び評価内容

調書番号:14 事業名:流域下水道普及活動推進事業費補助金

アドバイザー	評価区分	評価内容
五味アドバイザー	「要改善」	<p>自主点検シートに記載されているとおり、普及率を上げるためには市町村との協議検討が最も必要である。</p> <p>未接続の理由についての資料にもあるとおり、接続率の向上に対しては啓発だけでは対応できない理由が大部分なので、下水道まつりの意味合いは薄いと考える。そのため、下水道まつりの経費を他に振り向けるなど事業内容を再検討する必要がある。</p>
諸平アドバイザー	「要改善」	<p>下水道まつりの開催によって、下水道や浄化センターへの理解にはつながっていると思うが、下水道の接続率の向上に役立っているとは言いがたいので、対象者を限定した普及活動を引き続き検討してほしい。</p>
小口アドバイザー	「要改善」	<p>下水道の普及促進には、市町村財政と未接続家庭の扱いが課題である。普及啓発は必要ではあるが、下水道まつりに関しては、1,000人～1,400人の来場者があるにしても、接続可能地域における未接続家庭への啓発の効果は限定的であるという意味で、「要改善」とした。</p> <p>市町村との連携は必要であるが、普及啓発すべき対象は明らかなので、こちらに重点的に予算を使った方が効果的である。</p>